



行政への苦情や要望などを受け付け 行政相談委員が委嘱されました

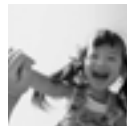
総務課 総務法制係 ☎(232)2111

佐藤清孝さん(南方)が菊陽町担当の行政相談委員として総務大臣から委嘱されました。

行政相談委員は、行政相談委員法に基づき、行政運営の改善などに熱意を持った人に委嘱されます。住民の皆さんの毎日の暮らしの中で感じた行政の仕事への苦情や要望などを直接受け付け、住民と行政のパイプ

役となり、その解決、実現のお手伝いをします。相談は無料で、秘密は守られます。

町では、定期的に相談所を開設していますので、お気軽にお越しください。詳しい日程は、広報きくよう「ふれあい総合相談」内の「行政相談」をご覧ください。



6月は児童手当・特例給付の「現況届」の提出月です

子育て支援課 子育て支援係 ☎(232)2202

児童手当・特例給付の受給者は、毎年6月に現況届の提出が必要です。

提出が必要な人には、「現況届」を6月上旬に送付しますので、記入押印後6月30日(火)までに次の添付書類を同封し、返信用封筒で郵送ください。

子育て支援課または西部支所でも受け付けますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため郵送での提出にご協力お願いします。

■現況届に必要な添付書類

- ・受給者の健康保険証の写し(児童の保険証ではありません)
- ・その他必要に応じて提出する書類(個別にお知らせします)

※児童と別居している場合
監護・生計同一申立書

※現況届を提出しないと、6月分以降の児童手当を受給できません。



町立保育所の今後のあり方を議論 菊陽町町立保育所運営検討委員会から答申書が提出

子育て支援課 保育所係 ☎(232)2202

町立保育所運営検討委員会から、町立保育所なかよし園とみどり園の今後のあり方を提言した答申書が町長に提出されました。

町では、町立保育所として残る2園の今後のあり方を審議するため、有識者、保育所関係者、保護者などで構成する菊陽町町立保育所運営検討委員会(委員長・熊本学園大学伊藤良高教授)を昨年1月に設置し、議論、検討を進めてきました。

本年3月に審議結果をとりまとめ、同委員会の委員長が4月23日に町長に答申書を提出しました。

答申書では、保育などのこれまでの町立保育所の機能に加え、新たな機能として、6つの取り組みの柱のもと23事業を実施するよう提言。保育所を利用する児童・保護者のもとより、在宅で子育てをする世帯の支援を新たに展開し、「地域に密着した子育て支援拠点」の機能を果たすよう取り組みの方向性が示されています。

町では、この答申を基に個別事業ごとに具体的な実施方法などを検討し、可能なものから順次実施していくこととしています。



答申書を提出する伊藤委員長(左)と受け取る後藤町長(右)

光の森武蔵ヶ丘保育園の新しい園舎が完成しました

町立保育所の民営化を受け、平成31年4月に開園した光の森武蔵ヶ丘保育園は、旧武蔵ヶ丘第二保育園園舎を仮園舎として運営されていましたが、3月に新しい園舎が完成し、子どもたちが元気に登園しています。

光の森武蔵ヶ丘保育園理事長あいさつ

光の森武蔵ヶ丘保育園は、4月6日に90人(定員100人)の園児を迎え、入園式を行いました。

旧武蔵ヶ丘第一保育園の跡地に建つ新園舎は、鉄筋コンクリート造2階建、延べ床面積941.11㎡。2階からは我が子を優しく見つめる母子像のステンドグラスが園児を温かい光で包み込んでくれる建物です。

保育理念には「ヒトは^{しつけ}で人と成る」を掲げ、病気やけがをしない丈夫な体作りを第一に考え、「体育、知育、徳育」のバランスのとれた保育を目指します。

■問い合わせ

子育て支援課 保育所係 ☎(232)2202
光の森武蔵ヶ丘保育園 ☎(337)4651



塚本美津代理事長



新しくなった園舎



屋上には人工芝のテラスがあります

仮設団地みんなの家を再利用

学童保育施設みなみっ子クラブが完成

菊陽南小学校区の新たな学童保育施設を、光の森仮設団地と宇土市高柳仮設団地の木造談話室「みんなの家」を解体・移築して整備し、4月20日に開所しました。

南小校区の創造的復興のシンボルとして

平成28年4月に発生した熊本地震では、菊陽町を始め県内多くの市町村で被害が発生しました。

町でも光の森多目的広場に仮設住宅と被災者の憩いの場として木造談話室「みんなの家」が県によって整備されました。

県では、被災者が退去するのに併せ、市町村が木造談話室などを再利用する際の経費を支援する新たな補助事業(木造仮設住宅の住まいの再建継続利用支援事業)を始めましたが、今回の学童施設の整備はこの事業を活用したものです。

これまで菊陽南小学校の学童保育は、近隣の保育所や南部町民センターを利用していましたが、今回の専用施設の整備に伴い、子どもたちが利用しやすい環境が整う



完成したみなみっ子クラブ

ことになります。

「みんなの家」は熊本地震後の被災者の交流の場でしたが、菊陽町の次代を担う子どもたちの交流の場として生まれ変わりました。

今後、南小校区の創造的復興のシンボルをみなみっ子クラブが担うことが期待されます。

■問い合わせ

子育て支援課 子育て支援係
☎(232)2202